





信号波数、スロット)を加えて、PS 8に空きチャネル情報を通知することにより、無線回線のリンクチャネル確立処理を省略できる(標準規格で記載のTCH切替型通信中チャネル切替)。このことにより、移動先CS 4とのTDMAフレーム同期の確立時間(リンクチャネル制御用フレームの間欠周期=1.00ms:公用接続規格、=1.26ms:自営用接続規格の最小値)分、更にハンドオーバーによる通過時間の切替時間の短縮が可能となる。

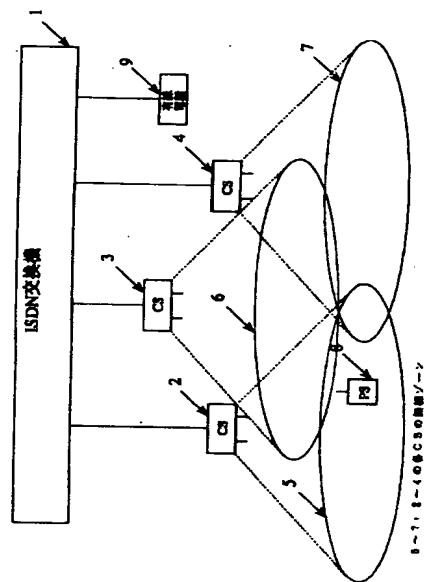
[0025]また第1の実施例において、受信電界強度の測定精度を向上させるために複数の受信電界強度測定用信号により平均化を行っていたが、受信電界強度測定用信号に通信中の通信履歴情報を加えて、受信電界強度測定信号によりPS-ID及びCS-IDの受信及び受信電界強度の測定と同時に、TDMAフレーム間隔を確立し、連続するTDMAフレームの通信チャネルで受信電界強度の測定及び平均化を行うことにより、平均化処理の高速化が可能である。

[0026]また第1の実施例において、受信電界強度測定用信号に通信中のCSを示す情報としてCS-ID 20としているが、通信中のCSが接続されている有線回線(ISDN回線)の識別番号(電話番号)としてもよい。

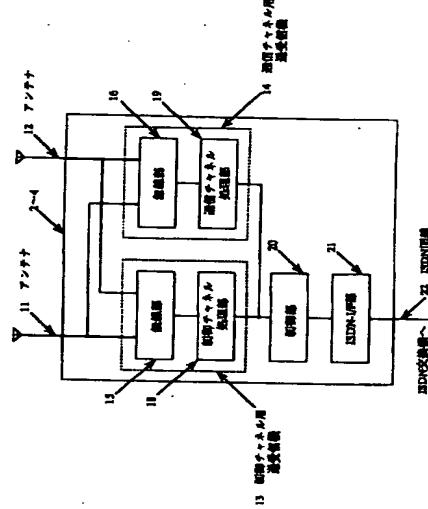
[0027]

【発明の効果】以上述べたところから明らかのように、本発明は、例えば、1または複数の交換機と複数の無線基地局により、複数の無線ソーンを構成する無線電話通信システムの無線基地局において、制御チャネル用送受信機と通信チャネル用送受信機を分離して、前記制御チャネル用送受信機は制御信号の送出時以外のタイミング 30では制御チャネルの受信を行い、通信中の受信電界強度の低下時に、移動局は制御チャネルで受信電界強度測定用信号を出し、周辺基地局は前記受信電界強度測定用信号により受信電界強度の測定を行い、通信中基地局は周辺基地局からの受信電界強度の測定結果により移動先

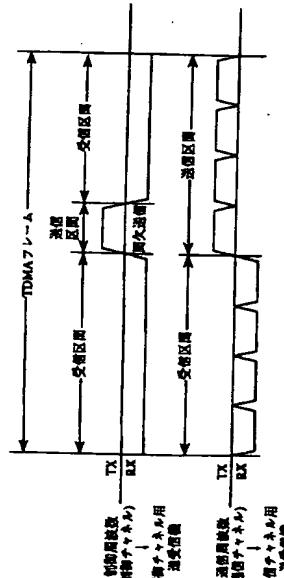
[図1]



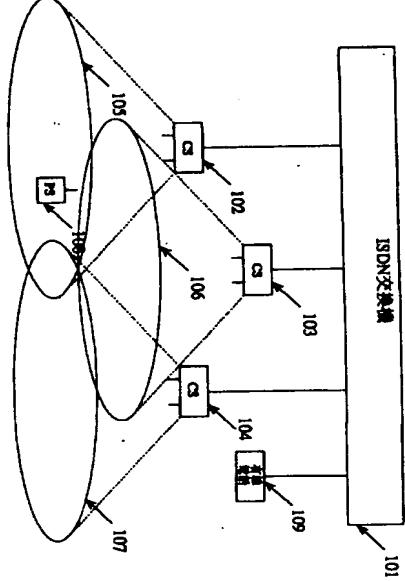
[図2]



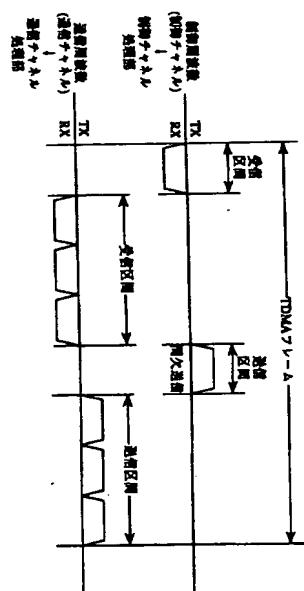
[図3]



[図4]



[図5]



フロントページの書き

(12)発明者 近江 健一郎  
大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内

[図6]

